

学位論文における評価の考え方（2024 年度以降入学生）

保健学専攻修士課程

本大学院保健学研究科修士課程を構成する看護学領域、リハビリテーション学領域は、学問分野としては医療・保健活動から社会科学や生体運動情報まで幅広くまたがっている。これらの領域は、それぞれ特徴ある歴史と発展があり、研究に対する手法と評価に対する判断の相違もありうるが、保健学研究科として同一の基準で評価・判定されることが必要であると考え、以下にその基準となる考え方および評価項目を示す。

1. 評価基準の考え方

修士課程の研究では、課題とその結果だけを重要視するのではなく、研究課題に対する院生の取り組み方および結論を得るまでの過程で、いかなる考察がありどのように努力がなされたかもまた重要である。

修士課程の研究で期待されていることは、ひとつの課題を定め、目標を目指して研究を推進することであり、その際、課題または研究手法における新規性が重要であると同時に、研究を推進していく過程での努力も大切である。すなわち、研究の背景・意義への認識、研究に先立つ事前調査と他者の研究状況の把握、使用装置や材料ならびに手法に関する理解と取り扱い技術の習熟、自主的な研究推進、多面的で深みのある考察、研究の発展性や展望への洞察、他者への説明などに対する努力と倫理面への配慮である。

2. 評価項目

1) 修士論文・課題研究論文の質に関する項目

- (1) 新規性（独創性）があること。ただし、課題研究論文では必ずしも新規性は求めない。新規性とは、たとえば、新しい現象・事実の発見、新しいまたは必要な技術・技法の開発、既存技術の改良、未解決問題の解決、従来解釈・見解とは異なる所見、研究方法の斬新さ、研究の切り口（側面）の違い、特徴的な分析方法、などをさす。
- (2) 先行研究を理解していること（先行文献の調査・検索など）。
- (3) 課題に対する研究方法が適正かつ科学的であること。
 - ① 調査資料の収集方法あるいは実験の手法と手順
 - ② 調査資料あるいは実験データの分析方法
- (4) 論旨の展開に一貫性があること。
 - ① 課題と内容の整合性
 - ② 目的と結論の整合性
 - ③ 方法、結果、結論の整合性
 - ④ 結果に基づいた考察
 - ⑤ 結論の導き方（短絡や飛躍をしていないか）
- (5) 成果の帰納化を考えていること。
- (6) 必要な倫理的配慮がなされていること。

2) 院生の修士論文・課題研究論文に対する姿勢・努力に関する項目

- (1) 研究課題の決定に際し、課題や文献を十分に理解したか。
- (2) 問題が生じたり、行き詰まったとき、解決できるように主体的に努力したか。
- (3) 結論を得るまでに十分な考察を行ったか。
- (4) 指導教員その他と十分な討論を重ね、独りよがりではない論理的・客観的な成果を得る努力をしたか。

保健学専攻博士後期課程

博士論文の評価基準

1. 基本要件

- (1) 博士論文は、学位を申請する者が、本大学院保健学研究科博士後期課程ディプロマ・ポリシーが求める学力、能力、資質を備えていることを示す十分な学術的価値と高い独創性を有するものであること。
- (2) 博士論文は、申請者自身の単著とし、他人の論文ないし研究発表内容を侵害する内容を含んでいないこと。
- (3) 博士論文は、著作権、肖像権その他の本人以外の権利を侵害していないこと。
- (4) 博士論文は、必要に応じて「医学研究倫理審査委員会」「組換え DNA 実験安全委員会」「動物実験委員会」等の承認を得て適正に行われた研究に基づき作成されたものであること。

2. 論文の構成

博士論文は、以下の要件を満たす構成とする。

- (1) 論文の題目が適切であること。
- (2) 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
- (3) 目的に沿った研究方法が記述されていること。
- (4) 結果が図表等を用いて適切に示されていること。
- (5) 考察が結果に基づいて適切に導き出されていること。
- (6) 目的に対応した結論が適切に導き出されていること。
- (7) 文献引用等が適切になされていること。
- (8) 前項までの内容が、適切な章立てにより不足なく含まれていること。

3. 内容

博士論文の内容は、以下の項目について評価する。

- (1) 専攻分野において国際水準での十分な学術的価値を有すること。
学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の創出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
- (2) テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、かつ高い独創性を有するものであること。
- (3) 選択したテーマと研究方法に従ってデータなどを的確に収集・処理していること。
- (4) 研究のプロセスに関して詳細に記載されていること。
- (5) 個々の図や表のデータの分析と解釈が詳細に記載されていること。
- (6) 論理的に一貫した構成と内容を有しており、高いレベルで完結性を有すること。
- (7) (1) から (6) までの項目に加えて、特筆すべき内容があれば、それも評価の対象とする。

学位論文における評価の考え方（2023 年度以前入学生）

医療科学専攻博士後期課程

博士論文の評価基準

1. 基本要件

- (1) 博士論文は、学位を申請する者が、本大学院保健学研究科博士後期課程ディプロマ・ポリシーが求める学力、能力、資質を備えていることを示す十分な学術的価値と高い独創性を有するものであること。
- (2) 博士論文は、申請者自身の単著とし、他人の論文ないし研究発表内容を侵害する内容を含んでいないこと。
- (3) 博士論文は、著作権、肖像権その他の本人以外の権利を侵害していないこと。
- (4) 博士論文は、必要に応じて「医学研究倫理審査委員会」「組換え DNA 実験安全委員会」「動物実験委員会」等の承認を得て適正に行われた研究に基づき作成されたものであること。

2. 論文の構成

博士論文は、以下の要件を満たす構成とする。

- (1) 論文の題目が適切であること。
- (2) 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
- (3) 目的に沿った研究方法が記述されていること。
- (4) 結果が図表等を用いて適切に示されていること。
- (5) 考察が結果に基づいて適切に導き出されていること。
- (6) 目的に対応した結論が適切に導き出されていること。
- (7) 文献引用等が適切になされていること。
- (8) 前項までの内容が、適切な章立てにより不足なく含まれていること。

3. 内容

博士論文の内容は、以下の項目について評価する。

- (1) 専攻分野において国際水準での十分な学術的価値を有すること。
学術的価値とは、未知の事象・事物の発見、新しい分析方法や理論の構築・展開、新しい学問的解釈や概念の創出など、当該分野における学術研究の発展に貢献をなすものを指す。
- (2) テーマの選択、ならびにそのテーマに即した研究方法の選択が、先行研究を着実に踏まえて行われており、かつ高い独創性を有するものであること。
- (3) 選択したテーマと研究方法に従ってデータなどを的確に収集・処理していること。
- (4) 研究のプロセスに関して詳細に記載されていること。
- (5) 個々の図や表のデータの分析と解釈が詳細に記載されていること。
- (6) 論理的に一貫した構成と内容を有しており、高いレベルで完結性を有すること。
- (7) (1) から (6) までの項目に加えて、特筆すべき内容があれば、それも評価の対象とする。